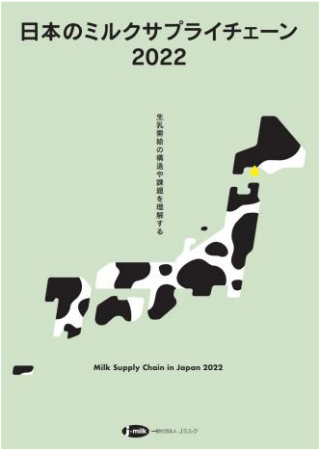
2022 年 12 月 1 日
一般社団法人 J ミルク

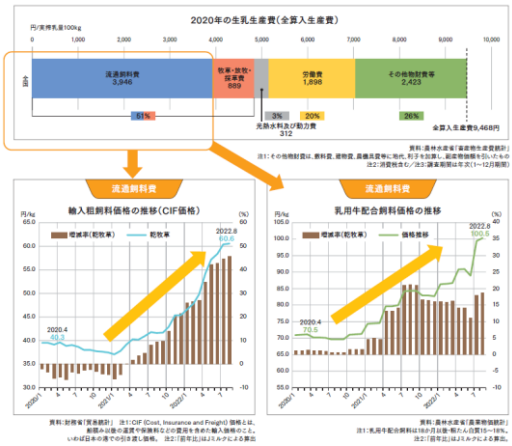
生乳需給 今年の課題踏まえアップデート

冊子「日本のミルクサプライチェーン」

Ｊミルクは、生乳需給の構造や現在の課題などについて解説した冊子「日本のミルクサプライチェーン 2022」を制作し、ホームページに掲載しました。昨年に制作していた「日本のミルクサプライチェーン 2021」を更新・加筆したアップデート版になります。

2022 年は、ウクライナ情勢や急激に進んだ円安、欧米などでの新型コロナウイルス禍からの経済回復などから、さまざまな原料・資材、エネルギーなどの価格が高騰しました。この価格高騰は酪農家や乳業メーカーなどの経営も大きく圧迫し、牛乳・乳製品の値上げにもつながりました。





生乳の需給は、コロナ禍で業務用の牛乳・乳製品を中心に需要が大きく落ち込んだことなどで、2020 年以降、緩和状態にあります。さらに 2022 年は家庭用需要が減少する事態となったことで、需給ギャップがさらに広がっています。

もともと、日本の生乳需給には、季節的、地域的な要因も関係して次のような特徴があります。牛乳類の消費量が増える夏場（飲用需要期）は、首都圏をはじめ大消費地で牛乳が不足する傾向が強く、主に北海道など酪農生産が盛んな地域からの輸送によって不足分を補充しています。逆に冬や春先は生乳生産が増える半面、牛乳類の消費量は落ち込むため、需給が緩む季節。このため長期保存できる脱脂粉乳・バターなど乳製品の製造に多くの生乳が振り向けられます。

こうした生乳のサプライチェーンの特徴や、ここ数年の大きな環境変化を受けて非常に重要になっている需給調整の必要性、また課題などについて、酪農乳業関係者が

認識を共有するとともに、流通・小売り、消費者など幅広い方々への理解促進にもつなげたいと考え、本冊子を制作しました。

概要は下記の通りです。

記

1．主な内容

PART 1　生乳の特性と流通について
・国内で最も消費されている食品
・需給調整が難しい生乳の特性
・生乳の流通体系について

PART 2　生乳需給に係る環境の変化について
・我が国における生乳生産量の推移
・消費地の偏り
・北海道と都府県における変遷
・用途別処理用の推移

PART 3　近年の生乳需給に係る課題について
・国内の生乳需給構造
・地域の需給ギャップについて
・季節の需給ギャップについて
・業界としての取り組みと課題について
・2022 年における生乳需給の課題について

2．体裁

16 ページ、カラー

3．ダウンロード

Ｊミルクホームページ
（https://www.j-milk.jp/news/m_supplychain2022.html）
からダウンロードできます。

以　上

【本件に関するお問い合わせ先】
一般社団法人Ｊミルク
生産流通グループ　岸本
東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5 階
電話：03-5577-7493